

グッドルーザーであれ

地区予選を勝ち抜き県大会に出場を果たす選手の皆さん、まずはおめでとうございます。先ほど、それぞれの決意の言葉を聞きました。とても立派でした。これから始まる県大会での活躍が楽しみになりました。先ほどまで、熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で陸上競技の県大会の応援をしていました。先日は水泳部が県大会において大変素晴らしい成績を残しています。幸先の良いスタートが切れています。思う存分に活躍してほしいです。

また、今回県大会に届かなかった選手や個人は、ステージ上を見ながら、次こそは…と強い気持ちをもっていることでしょう。先日の新人市予選会では、この試合さえ勝てば…という場面を何度か目にしました。さぞや悔しいことでしょう。それは、これから県大会に臨むチームにも当てはまります。全てが最後まで勝ち上がれるわけではないです。どこかで負けてしまうときもあります。その時に覚えていてほしいのが「グッドルーザー」という言葉です。「良き敗者」と訳すことができます。高校野球の強豪校・仙台育英高校の須江航監督は「負けたときに人間の価値が出るから、グッドルーザーであれ。負けたときに全力で相手に拍手をしてほしい」と、常に選手たちに伝えているのだそうです。この夏の甲子園、仙台育英は沖縄尚学との対戦で、延長11回の激闘の末に敗れてしまいました。試合後、相手選手をベンチで見送る選手の姿がテレビに映りました。全選手が帽子を取り、相手に対し拍手を送り続けているのです。すばらしいと思います。須江監督は、「人生は敗者復活戦」とも教えているそうです。スポーツに限らず何事も、勝ち負けで言えば、負けの方が圧倒的に多いです。その負けを素直に受け止めて、自分自身の、自分のチームの成長に生かせばいいのです。そういうチームが、最終的には一番強いのです。

改めて、県大会に出場する皆さん、富士見中学校の、熊谷市の代表として、全力で大会に臨んで下さい。腕試しです。頑張ってきてください。

みなさんの健闘を祈り、私からの激励の言葉とします。

熊谷市立富士見中学校長 田沼良宣